

高校生が先生に SNS を教える画期的な取組

～「高校生による SNS 講座」を実践して感じたこと～

神奈川県立鶴見高等学校教頭・柴田 功

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課指導主事・橋本雅史

神奈川県立総合教育センター教育事業部教育課題研究課指導主事・小澤美紀

SNS を使って児童・生徒がネットいじめや犯罪などに巻き込まれるトラブルが増えている一方で、高校生から見ると、学校の教職員は SNS に詳しくないことが多く、生徒の利用実態を把握できていないため、適切な助言をしてくれる存在になっていないと言われている。この事態を打開するため、神奈川県教育委員会では SNS に詳しい高校生を募集し、高校生が講師役を務める「高校生による SNS 講座」を平成 26・27 年度末に実施した。その実践を通して見えてきた情報科の授業の在り方をここに示すこととした。

1. なぜ SNS 講座を実施したのか

神奈川県では毎年夏休みに、高校生が県議会を疑似的に体験する「かながわハイスクール議会」を開催している。そこに参加した高校生議員から「先生たちは SNS に詳しくないので、私たち高校生が講師になって、教員向け SNS 講座を実施したい。」という趣旨の政策提言があった。神奈川県教育委員会としては、この提言をしっかりと受け止め、政策として計画・実施することとした。公募により講師役に名乗りを上げた高校生は、県立と私立合わせて 22 名(平成 27 年度は 24 名)、Twitter のフォロワーが 1000 人以上いる者や、SNS の利用を禁止されている高校の生徒など様々なバックボーンを持っている高校生たちが集まった。11 月に募集を開始し、3 月に研修講座を行うこととしたため、土日のオフライン、平日のオンラインで研修のテーマの決定や資料作成、ワークショップの内容の検討などを行った。

(高校生講師募集チラシの抜粋)

平成 27 年度は神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課グループリーダー兼指導主事

2. どんな講座だったのか

SNS の達人で、この件に問題意識を持つ高校生が集まって研修の講師になるといっても、多くの生徒にとっては、「研修」というものを経験したことがないため、12 月に行ったりハーサルでは研修講座には程遠く、単なる学習成果の発表会という形になってしまった。この取組を通して教員に対して何を伝えたいのか、研修テーマを見直し、寸劇やディスカッション、タブレット端末を使った実習などを取り入れ、生徒が教員に寄り添いながら、一緒に知識や操作方法を身に付けるワークショップを研修講座の中心にすることにした。

(研修講座シラバスの抜粋)

日付・会場	のねい (実施したい授業・研修)	形態・時間	内容	講師等
平成27年 3月22日(木) 13:30～ 14:30 神奈川県立 総合教育 センター 審判分舎 研修室 高研教育 会研修室	【課題】高校生のSNS利用の実態を把握し、情報モラル指導に必要な知識・技能を身に付ける。 【課題】高校生によるSNS利用について、その留意点を整理し、具体的な事例について、生徒に適切な助言ができるようになる。	聴講 90分 13:30～14:30 (90分以内)	「高校生のSNS利用実態」は、数回が過ぎたことにより、情報モラル委員の研修が実施された。 「事例検討・こんなときどうする? SNS利用」 公開にあったSNSに関する事例について、教員と生徒が一緒に、具体的な指導方法を協議した。	高校生による 情報委員会 加藤委員長
	【課題】SNS利用について、子どもたちの興味・関心に応じることができるよう、実践的な指導方法を身に付ける。	聴講 30分 16:00～16:30	SNSに関する情報モラル指導の在り方について、加藤委員長から教員にSNSに関する実践的な指導の在り方を協議した。	

直前のリハーサルまでは研修講座には程遠い状態内容であったが、生徒の成長は素晴らしく、本番では最高のパフォーマンスを発揮し、講義、実習ともに大変充実したものになった。

(研修講座の様子)



3. 参加者はどのような反応だったのか

過去2回行った研修講座の受講者は100名以上となり、高校の教員だけでなく小中特別支援学校の教員も参加した。講師役の生徒たちの熱心な姿や言葉づかい、礼儀などについても感銘を受けていた。

「高校生による研修講座、受講して良かったことを振り返ります。高校生の授業の進め方がとても良かったです。講師役の生徒たちの熱心な姿や言葉づかい、礼儀などについても感銘を受けていた。高校生の授業の進め方がとても良かったです。講師役の生徒たちの熱心な姿や言葉づかい、礼儀などについても感銘を受けていた。」

「高校生による研修講座、講師役の生徒たちの熱心な姿や言葉づかい、礼儀などについても感銘を受けていた。高校生の授業の進め方がとても良かったです。講師役の生徒たちの熱心な姿や言葉づかい、礼儀などについても感銘を受けていた。」

受講者アンケートからも、「生徒の実態が分かった」「生徒とともにSNSを考えることが大切である」等の、高校生ハイスクール議会が目指す結果が得られたと感じた。

4. 講座では何を伝えたかったのか

全6回の準備期間で、講師となる生徒がそれぞれ伝えたいことをまとめ、盛り沢山な内容を分担しながらすっきりまとめあげることができた。直前の準備での変更についても、若い力と柔軟性もって形を整え、受講者とともに学ぶ研修を作り上げることとなった。

また、私たち高校生は段々と大人には近づいてきてはいますが、まだまだ子供です。平日は朝学校へ向かい、授業を受け、部活や委員会・生徒会などの活動をして帰宅する**私たちにとって先生方は、1日の多くの時間を同じ場所で生活しているととても身近な“大人”です。これから先、今までよりもっと相談しやすく、困ったとき・悩んだときに頼ることが出来る関係になることを望みます。**

以上で「高校生のSNS利用実態Q&A」を終わります。ありがとうございました。

講師となった高校生は、この経験を通して新しい視点を持ち、伝えること、表現することの難しさと喜びを経験することとなった。学校、学年を越えた人とのつながりを築き、そこで得たことは大きいと感じる。今回の取組は全国知事会による第8回先進政策創造会議の優秀政策として表彰されるなど、他県やメディア等からも注目された。研修で使用した資料は事務局として取りまとめを行い、県内だけでなく全国的に発信していきたい。

5. 情報科の教員に対して伝えたいこと

こうした取組は、教育委員会の主催でなくても、各学校で取り組めるものであり、現行・次期いずれの学習指導要領においても情報科の学習内容に位置付いている「問題解決」の題材として扱うにふさわしいものである。特に、SNSに係る問題は、生徒にとって身近で切実な問題であり、情報科の授業の中で主体的、協働的に取り組むことが望ましいと考えている。

また、情報科の教員に目を向けると、SNSの利用に対して「特に利用する動機がない」「しくみを知っていれば十分である」という考え方を持っている方がいらっしゃる。その個人的なポリシーは尊重したいところであるが、情報科の教員の姿勢としてそれでよいのか、この場を使って発問したい。

私たち情報科の教員は、情報社会を生き抜く中でSNSを豊かな人生を送るためのツールとして上手に使いこなしている姿を生徒に見せていく必要があるのではないかと。今回、講師役を務めた生徒たちは、「SNSを利用する理想の教師像」という観点で、次のようなループリックを考えてくれた。

教員のSNS利用ループリック	
S	SNSを上手に使いこなし、生徒のSNS利用について、適切な助言ができる。
A	SNSをある程度利用しており、生徒のSNS利用について、相談に乗ることができる。
B	SNSを利用したことがあり、生徒のSNS利用について、ある程度相談に乗ることができる。
C	SNSを利用したことがない。興味がない。

情報科の教員であれば、生徒が示したループリックのS段階をめざすべきではないかと考える。

- S：情報科の教員として十分満足できる
- A：情報科の教員以外であれば十分満足できる
- B：情報科の教員以外であれば概ね満足できる
- C：努力を要する

参考文献

- (1) 神奈川県教育委員会高等学校教育課程研究集録
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f530260/>
- (2) 【10代のネット利用を迫る】高校生がSNSをどう使っているのか？ 本人たちが先生たちに解説してくれる講座、神奈川県教育委員会が開催 - INTERNETWatch
<http://internet.watch.impress.co.jp/docs/column/teens/700646.html>
- (3) 生徒が先生にSNS教える、LINE外しも実体験、神奈川県で「高校生によるSNS講座」
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/032601097/>